

全金大阪亜鉛支部青婦部

# 定期大会議案書

□ 日時 1980年10月1日(水)

□ 場所 資材倉庫2F



(写真 關ヶ光州民衆 '80年5月)

## 春雷

No. 10

大会特別号

'80年 9月23日

全金大阪亜鉛支部

青婦部

大阪市港区福崎二六二四  
☎(〇六)五七一・五二三五

# ハの年青婦部活動総括(案)

## はじめに

労働者主体で職場再建を打ちとろうという方向の中で、私たちは重大な局面をむかえている。

この秋に更生計画并済の見直しをせまられ、大阪地裁の悪名高い道下裁判官が破産をも含めた決断をくだす可能性もありえるという重大局面にあらうかと考える。

きびしい状況で、私たちの生活と権利を守るには何をしなければならぬのかとい

うことが真剣に問われている。

それは、生産を上げれば良いということだけでは無い。きびしい不況で生産を高めることすら難しい局面にある。そのような状況は、私たちだけではなく毎月数千件の倒産下にある労働者、大企業の前倒し合理化である減量経営で酷使されている労働者とも共通しているであらう。

きびしい局面にある労働者の生活と権利を守るべき総評をはじめとした労働組合中央は、合理化をつけられながら数が増え

ば要求がとおるという妄想で労組戦線の統一を進めている。

数が集っても一人一人の自覚―合理化に立向うという自覚がなければ生活も守れない、ならば「カレ」にもなりえないのは自明のことである。

そのような労組組合をめぐる右よりの動き、そして司法の反動化、鈴木自民党内閣による軍事強化「愛国主義」の思想宣伝という反動的情況と私たちの再建斗争も密接なつながりのあること。

従ってどうした状況をふまえ、私たちの青婦部活動の総括を明日の生活と権利を守る糧として全員で共有化したい。

## 総括

(四つの方針)  
にそって

一、青耳が定着できる生がいのある職場を、婦人の生活と権利の向上を、

一日の遅配以降、生活不安が全職場をおよび、全体二十数名の仲間がなじみの職場、これまで苦勞を供にしてきた人間関係を、もふり切り離れていった。

そのことは青耳労作者にも同じ不安を与えた。とりわけ、青耳労作者は不況といわれる時代でも着さを「売り物」にできる条件は存在するのであり、又、昼夜勤、重労働のきびしい労組条件とも合いまって三名の仲間が離れていった。その直接の原因は

遅配にもとめられるが、十二月三日に青耳部の忘年会に集ったのが三名という事にも仲間関係の弱さがあらわれているかと思う。

この事は、新聞等でいわれておる青耳の保守化と無関係ではなからうかと考える。

すなわち趣味にあった暮らしの私生活志向型で、収入、労作時間、環境問題、社会福祉には不満があるが改革しようとする熱意がなくあきらめる。

どうした意識が青耳の大多数を示める中で、今回の遅配等の生活不安から職場を離れたいという意向にしなければならぬ。

すなわち、労作者として、どのような生き方をするのか。あるいは、労作者相互の

仲間意識なり、団結といった事についての自覚がなければ青耳は定着することは難しい。

先の青耳の保守化―私生活志向型―組織ざらいの意識にくい込む、自覚をうながす契機を様々につくりだすことがより求められていた。どうした契機を先輩労作者に聞く会等や矢賀の歌声集金への参加の誘得等と活動してきた。

しかし、青耳部の共通の問題として認識されていたかという点<sup>々</sup>は十分であった。

それは役員が個別で働きかける傾向が強いという事にも表われていた事も含め、役員の間にも十分な理解にかけていたのでは



ないかと考える。

更に婦人の生活と権利の向上にもとりくめず、八十一年には要求なりをまとめる努力をしなければならぬ。

二、組合二十日の斗いの足跡に学び、先輩労作者との団結を強めよう！

青耳部員の大多数が七十五日の市川資本の官制合理化攻撃以降に組合員となり、従って支部方針である職場再建の斗い（十分延長等）を理解しにくい面がある。

更には平均日今四十七枚の組合員と青耳とのギャップを少なからず解消し、交流を深めると同時に支部に於ける共通の課題を確認してゆくという事で、先輩労作者に面

々会合を二回（二月十六日、六月二十八日）にわたって開催した。

お一回は、組合結成↓六三春斗↓御用化↓斗争の回復↓官制合理化↓職場再建という流れで話された。

青耳部員にとっては「定時」などあってないようなもの、とガツ一週間のうち帰宅して寝るのが二、三回、という想像を絶する労働条件に耐えながら全国金属の旗をあげてきた歴史。そして、六三春斗敗北後に「御用組合」になりながらも、資本の攻撃を自ら体験するといった貴重な教訓をもって組合は資本と対抗しなければならぬ。

生活と権利を守り、拡大する労働組合と

して奮闘されてきた歴史に感動を呼び起こされた。

そして同時に参加された先輩労作者からは、画期的企画であったと評価された。

組合活動に於いて青耳部と執行部との話し合いはあっても、現場組合員との組合活動を中心とした交流が少なかったからにはかならない。

同時に労作時間の三十分延長、選配というきびしい局面で青耳労作者がたとえ少数でも生産の中心の一角をにっている現情では、先輩自身も支部の方向性をも共有する一歩として「聞く会」への期待は少なからずのものがあった。

ただし、回数と時間的制約で青耳部が組合の歴史を知る、あるいは先輩の意見に耳を傾ける段階でおわり、職場再建のイメージを定、んで議論することには致らなかった。

三、地域共闘を強め、反独占の闘いを、職場再建の闘いは、職場を中心に闘うことはもちろん、官制合理化という裁判所の権力を利用した合理化としての更生法攻撃である。

であるから個別支部内の闘いだけでは勝利はできず、老合同、全金の数多くの破産、倒産攻撃下で苦闘している仲間との共闘なくして勝利はない。

そして、支部に於いても日本鋼管からの  
仕事の発注停止と独占企業は、生活と権利  
を守ろうとする労作者の前に立ちふさがる  
それは、争議下で斗っている労作者に共  
通した敵であり、反独占の斗いなくして生  
活と権利は守れない。

そういった考えにたち、地域共闘に積極  
的に参加しようという事で、婦人部を中心  
に争議支部支援バザーが一ヶ月の準備と支  
部内の物品カンパの呼びかけを積極的行  
いバザー成功の一担をになった。

バザーの成功は、少なくない地域の「オ  
バちゃん」に守りから買う、資金を作ると  
いうことだけではなく、倒産しても生活を

守るために頑張る組合があることを知らし  
めた。

同時に多くの他産別、自治労、教組の婦  
人との交流と港合同の争議支部の斗いを知  
らしめる契機になった事は評価に値する婦  
人部活動であった。

青年部では、独自に泊りをしている大正  
区の日産金属の火事見舞いの自主カンパ、  
役員を中心に建屋の修理に連日支援を行っ  
てきた。

そして、三・三〇春斗青婦連旗幟争ぎへの  
自主的参加、四・一〇春斗青婦連決起集会  
に港合同では唯一の自主的参加として全大  
阪の青斗の一翼をになつてきた。

又、五・一メーデーには労働歌集をつくり、たんなる衆りではなく、労働運動の発展にむけ、他単産とは一味違つ斗いをつくりだした。

#### 四・三里塚をはじめとする

反権力の斗いに参加しよう！

三里塚―原子力発電反対の斗いは、一国策―という名のもとに、地域住民の意見を無視し、農地を漁業を環境を奪い取るためにあらゆる法律、マスコミ警察―権力むきだしの攻撃との斗いである。

それは、倒産という名で、職場を奪われることと決して無関係ではない。

更には私たちが現在の「物の豊かさ」の中

で暮しているが、それは日本がアジアへの経済侵略によって成り立っている事を見るときに、南朝鮮の人々が軍事独裁打倒、民主化要求として対日自立を叫びかけて今春はじめに幾千人の<sup>とい</sup>犠牲を出しながら光州蜂起に到るまで声ばかりにさけんでいる。

そして、現在金大中氏をはじめ二十数名の人々が内乱予備罪、軍のデモンストラで死刑の危険にさらされている。

私たちは日朝連帯の斗いをもつくりださなければならぬ。

日朝連帯、反権力の斗いは、四・一八愛護の記録映画会の参加、四・一九朝鮮の民と統一に連帯する大阪集会への参加、五



・二五、三里塚現地集会を港合同の仲間と共に斗ってきた。

以上、様々な集会に参加してきたが、十分に青婦部内で共有化できていないことは今後の課題であろうかと考える。

#### 五、活動について

以上4つの方針にもとづく活動について事前に役員会をもち、できるだけ意欲統一を行い、更には全員集会をも合せて開催してきた。

又、活動報告は青婦部内にとどまらず支部全体への教宣という事で、青婦機関紙「春雷」を発行し、できるかぎりの報告をしてきた。しかし、毎月一回のペースで、決

十分とはいえない。又、全員集会についても、できるかぎり開催を多し、青婦部員の意欲の統一をはかる事が必要かと思う。

#### 八十五年役員

青婦部長 百瀬 章

副部長 前野 正彦 6/20自己退職

書記 奥山 晴彦

統制 佐藤 一好

婦人部長、中川 智恵子

副部長 山方 智恵子

#### 新青婦役員

西 天平(一月) 太田 洋三(一月)

平松 敏彦(七月)

退職者

山下 稔 (8%付、組合加盟74年5月)

新井 謙司 (8%付、組合加盟78年12月)

近江 文夫 (8%付、組合加盟78年1月)

前野 正孝 (8%付、組合加盟79年5月)

小林 広喜 (8%付、組合加盟78年11月)

谷向 保 (8%付、)

をうつ。

十日、青婦役員会(才一回)、青日部昼

休升集会(才一回)、婦人部昼休

み集会(才一回)

二十六日、青婦部ニュース発行(才一号)

十二月

一日、港合同支部青婦部代表者会議

五日、青日部昼休み集会(才二回)

六日、日産金属支部に火事見舞いカンパ

六千円届ける。

十二日、青婦部役員会(才二回)

十九日、青婦部昼休み集会(才二回)

二十二日、青婦部ニュース(才二号)更

行。港合同もちつき大会 開

# 活動日誌

十一月

三日、青婦部大会

五日、戸村一作(三里塚文山連合空港反

対同盟委員長)逝去に対して弔電

太田、前野、百瀬参加、青日部

忘日会

三十一日、青日部昼休み集会（オ四回）

二月

一月

青日部役員会（オ一回）

八日、三里塚に連帯する会、旗開き、佐

藤、百瀬参加

十九日、労竹戦線の右翼再編に対決

する全国集会―前野、松本、

二十一日、映画会「三池の斗い」(バザ

宮崎、西、太田、百瀬、佐藤

―実行委)相良、杉本参加

奥山参加

二十三日、青日部役員会（オ三回）

十五日、青日部ニュース（オ三号）発行

二十八日、狭山差別裁判糾弾、再審要求

十六日、先輩の話しを聞く会（オ一回）

春斗勝利大阪府民集会―前野

十七日、オ四回倒産整理、再建斗争支部交

佐藤参加

流会―奥山、百瀬、佐藤参加

三十日、大阪春斗青年婦人旗開き―前

二十三日二十四日、全金大阪地本青日部討論

野、中川、山方、長野、佐藤

集会―前野参加

参加

三月

三日、全金村國事議三・三集會一百瀬

佐藤参加

十二日、青柳部屋休み集會(才三回)

二十一日、青柳部役員會(才二回)

二十三日、物価メーデー、前野、百瀬

佐藤参加

二十五日、青柳部ニュース(才四号)

二十六日、二期工事阻止、百五人署名連

成、三里塚被害の有罪判決粉

砕、無罪獲得、全南西集會一

太田、佐藤参加

二十七日、萩原勇一(空襲反対同盟)を

固む懇談會一前野参加

四日

一日、西君に見舞いカンパ届ける。

十日、春日青柳連束起集會一河村、宮崎

松本、太田、佐藤参加。

十五日、青柳部役員會(才三回)

十八日、映画会「受難の記録」一佐藤

中川、山方、百瀬参加

十九日、朝鮮の民主と統一に連帯する大

阪集會一前野、百瀬参加

二十四日、青柳部役員會(才五回)

二十四、六日、水俣勸進公演

二十五日、室井君の職場復帰を待ち取る

會一太田、佐藤参加、青柳部

屋休み集會(才四回)



二十八日、春雷（青婦部ニュース改題）

発行（五号）

十四日、反徴兵制、反安保、日韓民衆連

帯奥西集会―太田、河村、佐藤

五日

百瀬

九日、樋口篤三講演会（バザ―実行委、

二十日、春雷（オ七号）発行

戦労研）―高野、松並、佐藤参加

二十七日、青耳部昼休み集会（オ五回）

十七日、青耳部役員会（オ四回）

二十八日、先輩の話を聞く会（オ二回）

二十日、校園、地域共斗公開学習会―太

七日

田、佐藤参加

六日、田結バザ―、山方、中川、高野

二十四日、春雷（オ六号）発行

松本、佐藤、田、百瀬

二十五日、三里塚現地集会―百瀬、佐藤

十二日、青耳部役員会（オ六回）

六日

十八日、青耳部役員会（オ七回）

十一日、青婦部役員会（オ六回）

二十日、西野協ホーリング大会、佐藤

十三日、上田卓三と共に反差別、反合衆

百瀬参加

議を以て決起集会―百瀬、佐藤

二十四日、青耳部昼休み集会

二十四日、反原緊集会、知られざる原案

九月

上映、平松、百瀬参加

一日、青年部役員会（オハ回）

二十五日、南大阪労働フイールド合宿、

五日、青年部役員会（オハ回）

大阪重鋳交流会、佐藤参加

八日、青婦部役員会（オ十一回）

二十九日、金大中、日韓連帯集会、

九日、青婦部役員会（オ十二回）

太田参加

十六日、金大中救出大阪府民集会―佐藤

三十日、青耳部暑休み集会（オ七回）

山田参加

八月

四日、青婦部役員会（オ七回）

一九日、青年部役員会（オ十回）

十一日、春登（オハ号）発行

二十五日、青婦部役員会（オハ回）

二十六日、青婦部役員会（オ九回）

三十日、青婦部役員会（オ十回）

# 八一年度青婦活動方針(案)

## 日情勢

導入から憲法改憲の目論見を公然と言いつてゐる。

### 「世界有事」の時代

6月の衆参ダブル選挙は、自民党の安定多数の議席確保という結果になった。こうした中で、新たに成立した鈴木政権は、戦争準備、有事立法と軍事力強化、福祉きりすて、増税、民主的権利の侵害とファッショイ化などの攻撃を強め、更には小選挙区制

今、私たちは、こうした厳しい情勢の中にある。しかし、こうした攻撃は、体制側の強さを示すものではなく、その逆である。この間の内外の情勢の出来事は、その事を物語っているだろう。

国際的には、イラン革命（78年2月）、ソ  
モサを打倒したニカラグア革命（78年7月）、  
そして韓国での朴射殺事件から今年5月の  
光州の闘い、更にはアメリカ力のイラン・人  
質奪回作戦、軍事侵攻の失敗、マイアミで  
の黒人反乱（5月）……。そして、国内的  
には、昨年、自民党の内部抗争による40日  
間の「政治空白」、KDD事件、27年ぶりの  
内閣不信案の成立……。

まさに、世界は何がおこるか分からない  
という「世界有事の時代」（山川暁夫）に入  
っている。そして、この根底には、日本資  
本主義を含む世界資本主義体制の危機の深  
まりがある。すなわち、戦後の資本主義体  
制をリードしてきたアメリカが、もはやか

つてのように「世界の憲兵」としての力を  
もちえなくなっている現状がある。

ふりかえれば、70年代は「ニクソン・シ  
ョック」<sup>(注1)</sup>（71年）、ニクソン・ショック<sup>(注2)</sup>（73年）、  
そして、アメリカ力のベトナムでの完全敗北  
（75年）、こうした流れは、アメリカ帝国主  
義の力の低下を示すものである。

日本においても、高度成長による安定し  
たブルジョア支配の時代が終わり、73年の  
「オイル・ショック」をきっかけに、75年以  
来6年つづきの長期不況の真只中にある。

こうした資本主義の危機の反映として、80  
年代の幕明けにあたって「不透明の時代」  
「不確定性の時代」「出口なき混沌」などと  
財界・マスコミなどで盛んに言われたのは



記憶に新しい。

逆にいえば、80年代は、オーストラリア人民の胎頭をはじめとする全世界人民の闘いが勝利する時代である

① 71年、ドル危機が深まり、アメリカの金保有高が100億ドルまでにおち込んだために、ニクソン大統領は、金・ドル交換停止をはじめ、10%の輸入課徴金の実施、対外援助の10%削減、賃金・物価の90日間凍結、などを内容とする防衛策をとった。これによって、ドルを基軸通貨とする国際的信用制度が崩壊し、これが、ドル・インフレの輸出となり、各国のインフレ・高物価を招くことになった。

② オイル・ショック……バトナムをはじめとする民族解放の闘いの昂揚の中で、中近東諸国の民族主権の主張が高まり、しかも世界インフレの中で、石油価格があがらない現実に対して、先進国インフレに底じた修正としての価格革命としてあった。そして同時に、イスラエルの侵略政策に反対しない国には石油を送らない戦略と結びつけて打ち出された。この73年秋のオーストイル・ショックは、それまでオーストラリアの石油など資源の収奪のうえに成りたってきた資本主義体制の存立そのものを脅すものとなった。更に、74年

のオニ次オイル・ショックは、イラン革命と連動し、国際石油資本（メジャー）の支配をくずし、産油国自身が生産、流通の支配権を握る方向へと更に前進している。

## 日本資本主義の危機ののり切り策

### Ⅱ「総合安全保障―危機管理」

これに対抗して、世界資本主義世界体制は、アメリカ帝国主義を中心にしながら（アメリカに代わる資本主義国が存在しないので）、危機をのり切るために、サミット（先進国首脳会議）などによる「調整」によって同盟関係を強めながら、他方では「米中接近」に示されるように「社会主義国」

の分断をはかりながら、その体制の再編をおこなっている。しかし、こうした中でも自動車輸出規制問題などの日米経済摩擦にみられるように資本主義国間の矛盾、対立が強まっているのが現実だ。

この中で、日本帝国主義は、ヨーロッパでのEECのようにアジアでの支柱として安保体制の侵略的、反革命的強化にのり込んでいる。この中で打ち出されているのが「総合安全保障―危機管理」であり、その構想のもとで政治、経済、社会、文化、教育などのあらゆる分野での再編をおこなうとしている。

## めまぐるしい軍備拡張の動き

とくに、軍備拡張をめぐる動きはめざましいものがある。日米安保体制のもとで、アメリカめ肩代わりを強め、「日米防衛協力指針」(78年)<sup>注3</sup>にそって日米共同作戦体制の強化・整備をすすめている。今年2月の太平洋合同軍事演習(リムパック)には、海上自衛隊が参加した。そして、いまや日本の在日米軍基地は、韓国・ASEAN諸国<sup>注4</sup>などの東南アジアのみならず、中東であれ、どこの地域であれ、米軍の出撃拠点として強化されている。事実、あの光州蜂起のとき、その制圧のため、アメリカは急拠、F3A(警戒司令機)2機を嘉手納基地に

配備し、偵察にあてたことは周知のことである。

こうした中で、自民党政府は、防衛予算の増額、財界は軍需産業の拡充、武器輸出から徴兵制まで主張するに至っている。こうした動きは、従来の韓国をはじめとする経済侵略のうえにたって、自衛隊の海外派兵の道をきり開き、戦争体制の準備をすすめていくものである。

<sup>注3</sup> 日米防衛協力指針……76年8月に発足した日米防衛協力小委員会が「緊急時(つまり有事)に際しての日米共同作戦のガイドラインを決定する」を目的にして検討された結論で、78年11月27日、日米安全保障協議委員会(正

式に承認された。その内容は、これまでの日米共同作戦が現行安保条約にもとづき、直接にはわが国への武力攻撃が生じた時にのみ限定されていたのに対して、①侵略の未然防止、②日本に対する武力攻撃のおそれのある場合に拡張され、更に③日本以外の極東における事態で日本の安全に重要な影響をあたえる場合まで含むこととなった。これは、現行安保条約の實質的改定といえるものである。

注4 ASEAN……東南アジア諸国連合の略。タイ・インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシア、ベトナム戦争当時、'67年に反共同盟として

結成された。①地域協力の促進、②安全保障、③経済・技術・文化の各分野での相互援助を課題にした。

### 財政危機の深刻さ

そして、財政危機は独占本位の不況脱出策の結果として、国家財政の40%余りを国債発行し（これは、太平洋戦争―国家総動員体制下の45年の42%に匹敵する）、その累積残高は、昭和55年度末に7兆円に達している。こうした中で、増税（一般消費税の導入など）、福祉切りすて、行政サービスの切り下げ、そして公共料金値上げなどの攻撃をかけてくることは必至である。



労働者に犠牲を押しつける「減量経営」

また、「経済安全の確立と技術立国の道」をキャッチフレーズに、原子力・航空・宇宙産業などを戦略産業としながら、独占本位の産業構造の転換がすすめられようとしている。こうした中で「減量経営」によって、合理化・倒産など労働者への犠牲押しつけがおこなわれている。

強まる権利侵害とファッショ化

更に、労働運動を抑える労働基準法改悪の動きがあり、植枝最高裁判決や全通マル生運動への東京高裁判決にみられる司法の反動化、ヒラ撒き弾圧など、民主的権利の

侵害とファッショ化がすすんでいる。

反合・反独占・反権力の

闘いの先頭に立つ

このように、危機の切り取り策として、自民党政府が、議席安定多数を背景としてくわえてくる戦争準備・軍国主義・ファッショ化、反動攻勢の強まりに対して、この危機を労働者の闘いのチャンスとしてとらえ、全面的な反対運動をまきおこそう。この中で、闘う労働者との連帯・共闘を強めていく。こうしたことは、同盟、IMF・JCを中心にして総評中央をもまきこんですすみつつある右翼的労戦統一を打ち砕いていくためにも必要だ。

私たち青年婦人は、この反合・反独占・反権力の闘いの先頭に立つ。

## 二 闘いの方針

職場再建の闘いの先頭に

青年婦人は立つ

労働者主体の職場再建の闘いは、一月の20%賃金遅配などに示されるように厳しい現状の中にある。独占日本鋼管の発注停止、市中金融機関の取り引き停止などに加え、この間、調査員の派遣、并済計画の見直しなど道下裁判長（大阪地裁民事六部）のも

とで、司法権力の介入による「更生会社から破産へ」という策動がおこなわれている。ところで、労働者主体の職場再建とは何か。青年婦人が職場再建の闘いの先頭に立つために、その具体的な内容について討論を深めていく必要があるだろう。青年部は部員数の少なさ、婦人部は高令化などの困難を克服して、職場再建の闘いの実質的な力となる活動を一層強めていかなければならない。

また、青年婦人の要求、権利の獲得について、春闘、夏一、秋闘、年一の闘いなどを通じておこなうていく必要がある。

青年部については、前期の活動方針であつた「定着できる生きがいのある職場

づくり」「先輩との交流・団結」の方向を更にめざしていく必要がある。職場再建の闘いの意義を十分に理解していく活動を強めながら、お互いの日常的な信頼を深めていく。『セニ金』という面では、賃金遅配にみられたように厳しい現状の中では、生きがいのある職場づくりとは、労働組合の原点にたち、闘い、労働することの楽しさ、苦しさをお互いに共有していく中でかち取れるであろう。

そして、こうした青婦部活動を押しすすめるために、青年婦人が職場での組合活動、生産活動で信頼され力となる努力を強めていくとともに、支部全体の活動にも積極的に参加していく。

## 地域の青年婦人との

### 交流・団結を強めよう

この間の地域をとりまく情勢は、かつてないほどに厳しいものがある。港合同の拠点組合である田中機械支部に対する一昨年（78年）9月13日の自己破産攻撃、そして昨年6月22日の暴力的強制執行、黒瀬工作所の移転、その工場跡地のマンション建設問題をめぐる工場追い出し策動、北条歯車支部に対する大阪工場閉鎖攻撃、中央造船支部の組織弱体化攻撃、更には、矢賀製作所支部での大阪府保証協会、大阪市保証協会による団結権破壊攻撃など、こうした一連の攻撃には、港の労働運動を根こそぎつぶ

そうとする資本の狙いがある。

「減量経営」による合理化、倒産などの嵐が強まる中で、港の地域連帯の闘いの中でつくり出されてきた「労働者への犠牲転嫁を許さず、団結権を確保し労働者自らの力で職場を守る」という闘いは、全国的な注目をあびるものとなっている。

わたしたち職場再建の闘いも、田中、矢賀との生産面での連携を含め、地域の闘いと共にすすみ、かつ、その闘いに支えられ励まされてきた。特に、田中機械支部の新日鉄、三菱銀行、関経協による破産との闘い―職場占拠、自主生産の闘いは、港の争議組合の中でも権力、独占との攻防の最先端の闘いとして、集中した弾圧、攻撃をう

け、かつはねかえしている闘いとしてある。従って、田中機械支部の闘いは、私たちの職場再建の闘いにも大きく影響するものであり、その勝利めざし共に闘っていかなければならない。

青年婦人部は、田中機械をはじめとする争議組合の勝利をめざし、港合同や地域の青婦部、青年、婦人との交流を深め、地域連帯の闘いへのより一層の積極性が必要である。そして、地協青婦活動の機能停止という困難な条件を克服し、地域の青年婦人の共同行動の実現に向けて奮闘していかなければならない。そのために、私たち自身の青婦活動の力の向上が必要である。

青年部では、田中機械、日産金屬の泊ま



り、矢賀の昼休み唄声集会などの日常活動  
を強め、婦人部では、昨年そして今年と2  
回にわたっておこなってきたバザーを通じ  
ての地域、他単産の婦人との交流、連帯の  
意義を再確認し、この種の催しへの積極的  
参加をしていこう。

更に、青婦部としての学習会、集会など  
の取り組みをする中で、地域の青年婦人と  
の交流を考えていく必要があるだろう。

## 反独占・反権力の闘いを 強めよう

鈴木政権の戦争準備・軍国主義化・ファ  
シナ化・反動攻勢の強まりの中で、青年  
婦人が先頭に立ってこの攻撃と闘い、反独

占、反権力の闘いを全国の仲間と連帯して  
闘おう。わたしたちの職場再建の闘いも  
司法権力を利用した官製合理化との闘いで  
あることを確認するなら、反独占・反権力  
の闘いなくして、その勝利の展望もありえ  
ないことは明らかである。

三里塚・日朝連帯・反原発・狭山差別裁  
判糾弾など部落解放の闘い、関西新空港絶  
対反対の闘い、労基法改悪反対の闘いなど  
の課題に、青年婦人の自主性・行動力を発  
揮して取り組もう。そして、10・21国際反  
戦デーなどの統一行動についても積極的に  
参加していこう。

(1) 三里塚空港建設の闘い

三里塚農民は、新東京国際空港（三里塚

空港）建設による一方的な農地とりあげ、人権じゅうりんに反対し、15年にもわたって反権力の実力闘争を闘いつづけている。

自民党政府は、2年前（78年）の3月、管制塔占拠をはじめとする人民の闘いの前に一担は、開港を断念せざるをえなかったが、その年の5月、権力の弾圧体制で四千メートル滑走路一本による開港を強行した。

それ以降、政府・公団は、二期工事（横風・補助滑走路2本の建設工事）着工をめざし、ペテン的な「話し合い」や「農協移転問題」、成田用水などの農業基盤整備事業をちらつかせながら、三里塚・芝山連合空

港反対同盟の切り崩しを狙っている。

しかし、三里塚農民は「開港」という既成事実には屈せず、騒音地獄と闘いながら、廃港に向けて闘いつづけている。また、動労ジェット燃料輸送阻止の闘いをはじめとする労農連帯の闘い、三里塚レッドパージとの闘い、そしてパイプライン沿線住民の闘いなど、全国の労働者、学生、市民の連帯支援の闘いも粘り強く闘われている。

こうした中で、当面、10月に予定されている対政府・運輸省への抗議行動をはじめ、労農連帯の立場から三里塚闘争への参加を強めよう。

## (2) 日朝連帯の闘い

隣の国 韓国では、全斗煥が大統領の座をかすめとり、軍部独裁ファッショ政治が強ま、っている。

5月の光州人民の民主化の闘いは、このファッショ政治に対する韓国人民の宮々としてつづいてきた正義の闘いである。この闘いに対して、全斗煥は、全国に戒厳令をひき、300名の労働者、市民を虐殺し、金大中氏をはじめ多くの民主人士を獄中にとらえるなどの暴挙をおこなった。

日本政府は、この全斗煥を支持し、政治・経済・軍事上でのテコ入れをおこなっている。しかも、歴代の自民党政府は、朝鮮民族の悲願である南北統一を妨害し、

きたのである。

こうした中で、日本政府の対朝鮮政策の転換を求め、朝鮮の自主的平和統一を支持し、韓国の民主化の闘いに連帯する闘いを強めよう。緊急の課題として、金大中氏をはじめとする韓国の民主人士への弾圧を許さず、全斗煥の暴挙を許さない闘いをまきおこそう。

## (3) 反原発の闘い

原発の開発は、政府・独占の「石油の代替エネルギー開発」あるいは「80年代の戦略産業」のかけ声のもとに強力にすすみつつある。

また、日本は「核大同」をすすめる

つつあり、東南アジアへの小型原発輸出構想、独自の核燃料サイクルの確立をめざすに至っている。そして、再処理工場の建設にともなう廃棄物を太平洋にすてようとしている。

原発開発は、放射能汚染の深刻さ、その軍事利用による核武装の道を切りひらくこと、高度な管理社会化、など許すことのできないものである。

今年の原水禁広島大会で、ウラン採掘、原発、再処理工場などでの労働者被ばくの増大、放射能汚染の深刻化、核拡散に対する反対決議が採択されたことにみられるように、全国の反原発の運動はわりあがりをみせている。

私たちは、大阪軍縮協をはじめ反原発を闘う仲間と連帯し、反原発の取り組みをはじめよう。

#### (4) 狭山差別裁判糾弾の闘い

司法権力は、2月7日、狭山差別裁判の再審要求に棄却という許すことのできない暴挙をおこなった。

77年8月9日、最高裁は、才二審東京高裁寺尾裁判長の「石川一雄さんへの無期懲役判決」を引きつぎ、上告を棄却した。

そして、今回またもや「全ての事実調べを行い、再審をおこなえ」という声に対して棄却でもって応えたのである。

部落差別ゆえに、女子高校生被害の罪名



をデッチ上げられた石川さんは、17年にわたる獄中生活を強いられている。無期懲役の判決は、獄死攻撃というべきものである。

「部落解放なくして労働者の解放なし」、  
「労働者の解放なくして部落の解放なし」  
との視点から、そして司法の反動を打ち破る闘いとして、一日も早く再審の狭き門をこじあげ、無実の石川さんを取り戻そう。

#### (5) 関西新空港絶対反対の闘い

政府は「埋め立てによる建設」、「56年度着工」あるいは「57年度着工」を主張するなど、この間、関西新空港建設の動きを急ピッチにすすめている。関西財界も「関西地盤沈下の力上げ」「景気対策」

の力ケ声も高く、積極的に建設を推進しようとしている。

そして、形だけの「環境事前影響調査」で、本年中にも「泉州沖空港の閣議決定」にむちこもうとしている。

関西新空港をめぐる情勢は、重大な局面を迎えている。

関西新空港は、地元住民の生命とくらしを破壊するのみならず、軍事拠点としての役割を果たす、など反住民的反労働者的なものです。

こうした中で、泉州をはじめ大阪湾岸の住民と連携し、大阪府下の労働者、市民と共に、関西新空港絶対反対の闘いに立ちあがろう。

(6) 労働基準法改悪改訂の闘い

この攻撃は、労働者の基本的権利をはく奪するものである。とくに、女性労働者に対しては「男女平等」の美名のもとで、夜間勤務禁止の規定や生理休暇の規定をはずすなど、母性破壊・女性の抑圧強化・労働条件の悪化をもたらすものである。

二交替勤務体制をとっている私たちの職場では、とくにこの労基法改悪の問題は、身近であり影響が大きい。

婦人部を先頭にしながら、青婦部としても反対運動をつくりあげていこう。

### 三

## 青婦部活動体制について

以上の活動をすすめるにあたって、従来おちいりがちであつた「割り合て動員」的な参加を克服し、学習活動を重視しながら自覚的な取り組みをすすめていこう。

そのために、次のことを考えていこう。

(1) 役員体制の強化と全員でつくる青婦部活動

役員体制については、今後強化していくとともに、各役員の仕事の分担をより効果的におこなうていく必要がある。

そして、部員相互の意志疎通を深めるために、昼休み集会を数多くもち、二交替勤務という困難な条件はあるが、必要に応じて全員集会を開き、全員が参加しつゝ、ていく青婦部活動をめざそう。

## (2) 「春雷」発行について

前期においては、月一回のペースで「春雷」の発行をはじめ、不十分ながら青婦部活動の現状を伝えることができた。

その成果のうえに立って、速報性や機動性を發揮できるように、発行回数を増やす努力が必要であらう。

## (3) 支部の関いとの連携の強化

従来、青対部長を通じて、日常的に支部の関いの現状を理解してきたが、もっと積極的に支部の関いになっていくために機関の運営の中で一定の役割を果たすことができる方向をめざす。(例 拡大執行委員  
会への青婦部代表の参加)

## (4) その他

学習会などの開催によって、青婦部員の自覚の向上をはかっていく。